

ARTOMO CASUAL Vol.4

姫路市立美術館と友の会の「今」を軽やかに届ける『あーとも・カジュアル』第4号／2023年3月吉日発行

活動／メッセージ

心のくもりが晴れるアートを共に。

友の会の会長を務めさせていただいて早3年が過ぎようとしています。ほぼ「コロナ」との3年間でした。最初の一年は美術館の展示空間・設備の改修もあり、はたして展覧会が開けるか開けないかという状態で始まり、二年目の令和三年からは「オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト」が始まりました。

最初の招聘アーティストは日比野克彦さん。明後日朝顔プロジェクトを始め、アートって美術館の展示室に飾ってあるものという枠を大きく踏み超えていくアートプロジェクトの醍醐味を知りました。

書寫山園教寺の摩尼殿を明後日朝顔の蔓がスルスルと伸びていき、花を咲かせ、実を付け収穫する。そのことにいろいろな人たちが熱心にかかわり、心を動かされる・そのときそのときのこころの蠢きこそがアートなのだという日比野さんの芸術活動は、まさにコロナ禍において芸術が社会になにを果たせるのかという問いへの大きな答えとなりました。

三年目の令和四年度は杉本博司さんの「本歌取り」という芸術形式の奥義を垣間見ました。また新緑の中で観た園教寺常行堂でのインスタレーションは足を運ぶたびに一期一会の体験でした。まだまだ杉本芸術は奥が深く、直島へ、小田原へと足を運びたいと思います。

そしてこの年は瀬戸内国際芸術祭の開催年でもありました。プレ・ツアーふくめ友の会のみなさんとの二度にわたる小豆島鑑賞バスツアーは、「これもアート?」「これがアート!」とオドロキと発見の連続で、参加された方々の生き生きとした笑顔とともに深くこころに残る一ページとなりました。そしてあらためてアートとは美術館の展示室のなかだけにあるのではなく、わたしたち一人ひとりの心の中にこそ生まれるものであり、それをさえぎる感性のくもりを払いぬぐい取るお手伝いをするのが友の会の使命のひとつだとの思いを強くしました。

この三年間、友の会の会員数は300名をすこし切るぐらいであり変わりありませんでした。コロナ前の600名あまりから比べるとかなり少なくなったとは言え、このような時期こそアートが暮らしに必要と感じ、美術館の取り組みや存在そのものを応援してくれる心強い300名の応援団とともに歩んで来られました。

ミュージアムショップでも、手軽に手に取っていただけるアートグッズのセレクトとともに、ポストカードの制作や地元の作家ものの展示販売、アート関連書籍の充実などショップスタッフとともにチャレンジを続けています。

これからの課題は、会員のみなさんの幅広い関心に応える事業を企画実施していくこと、まちなかでのアート体験やふだんからアートのある暮らしの実現を応援すること、そして友の会の専従の職員をふたたび雇えるようになって総務課のみなさんに抱っこから自立することでしょうか。

さあ、4年目となる令和5年度は、チームラボが招聘アーティストとして、美術館で、園教寺食堂(じきどう)でアート作品を展開します。そして美術館も友の会も40周年を迎えます。会員のみなさんとともに、アートが生まれ続ける瞬間を「くもりなき眼」で見届けていきたいと思います。(姫路市立美術館 友の会会長 米谷 啓和)

*オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクトとは

姫路市立美術館が、令和3年度から6年度までの4年をかけて、アートのプラットフォームとして、海・島・山・森林・田園、姫路全域が擁する地域文化をアートの力で市民ライフの糧として再発見するとともに、新たな姫路の魅力を国内外に発信するアートプロジェクト。

活動／レポート

「瀬戸内国際芸術祭2022」小豆島・鑑賞ツアー 感想記

楽しいツアーだった。

その1) 作品がどこにあるか、誰も知らない。

バスは、案内本やナビをもとに停車するが、作品はない。作品番号と方向を示す看板を頼りに、皆で搜索。不安になりつつ道を進む。あった!まるで財宝発見。屋外作品は、山の尾根、棚田の中、海の上、旧道の先と、探す楽しさを満喫させてくれる(その分しっかり歩かされる)。

その2) 作品は、すべてに感動。

ある作品は、大きな船型作品の組み込まれた水墨画。正面から見ると、絹布に描かれた水墨画だが、横にまわると無数の色糸が水平に張られ、虹色のうねりを作る。糸は、水墨画と2mほど先の白地の絹布を結んでいる。よく見ると糸は、水墨画の木々や山や建物などの輪郭に沿って、すき間なく縫い付けられている。とてつもない時間と手間!

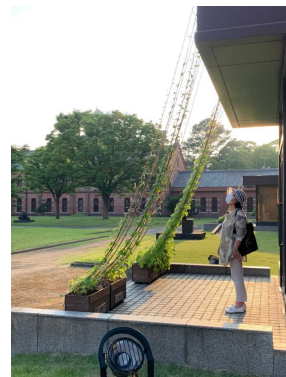
また、ある作品は、竹でできた高さ10数メートルの巨大な鳥かごで、内部に入ることができる。割竹が、幾重にも重ねられ、隙間だらけではあるが強固な皮膜を作っている。多分一つ一つ、からませ組み上げた。多くの人が携わっているに違いない。気の遠くなる作業。

どれも、すごい!よくもこれだけ手間と時間と物量を重ねたものだと感心させられる。

その3) 楽しい人たちがいっぱい。

寒霞溪の作品「空の玉」の前で、車で訪れた若い二人が写真を撮っていた。それを見てY氏は、「お撮りしましょうか」。加えて二、三の会員も「少し寄って」「顔を回して」「立ち位置を変えて」「こっちを向いて」「それいい」と、モデル撮影会。くだんの二人は、照れつつも素直に応じる。きつと素敵写真が撮れただろう。

何ともおせっかいな(愉快的)人たち。



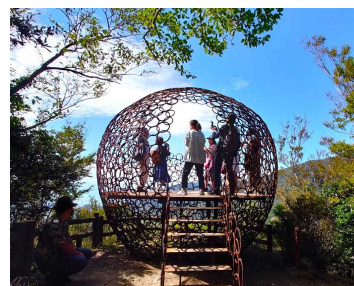
2年目の明後日朝顔。日々成長する朝顔の様子を大人も子どもも楽しんだ夏。



心地よい前庭に! 夕日と霧の彫刻を見ながらの芝刈り。その後のビールは最高!



見つけられそうで見つけられなかった作品。みんなで山道を歩き、「あったー!」



眼下に広がる寒霞溪。紅葉はもうすぐ!

いろいろあったツアーだが、余裕で帰りのフェリーに乗船。感謝である。

現代美術の特徴は、「見る」「見られる」から、作家や作品と見る側が、場と時間を共有し「参加する」ことにあると思う。作品と出会い、楽しい、面白いだけでなく、つまらない、何だこれ？を含めて、時間、空間を共有し、作品に触れる、それでいい。

今回のツアーは、現代美術を十二分に楽しめた。少なくとも私は。(山口政勝/友の会 会員)



青い海、広い空。島の雄大さを感じるひととき。

活動/レポート

「明後日朝顔プロジェクトin姫路」収穫祭 @姫路市立美術館

今年の収穫祭は、美術館前庭で開催される姫音祭と共にスタート。鎧武者のピアノ演奏から始まりました！準備するわたし達もウキウキ。美術館の庭に沢山の人がいて、子どもが霧の中を走り、バックミュージック…。なんて素敵なスタートでしょう！

飾り付けの折り紙朝顔を作っていると、お母さんと松葉杖をついた小学生の女の子がじっとこちらを見ている…。「お花あげましょうか？」「うん！」みんなで杖に朝顔を付けるとニコリ！私達も嬉しいことでした。また、チラシを配っている時、親子連れの子もさんに「朝顔の種の絵描ける？」と聞くと、おんぶされていても「かける！」と言ってくれます。親御さんに「日比野克彦さんの朝顔なんですよ」と話すと、日比野さんを知っていられる方は「姫路市立美術館はそんな活動もやってるんや！」と言って、種を育ててみたいという方も何人かおられました。

辺りを見ると「種が生まれるところ」を背景に、一家でウサギの耳をつけてチャッカリ年賀写真を撮られている方や、芝生で寛いでピアノに耳を傾ける外国の方のグループや、種の収穫をしながら隣りにおられた不動産長に小さい頃の朝顔の思い出話をされた方もおられたそうです。

秋晴れの空のもと、地に着いた穏やかな収穫祭の一日でした。(岡崎沙知子/友の会 企画室)



美術館前庭でのピアノ演奏と霧の彫刻



収穫した種を見ながら思い思いの物語を絵に！

「明後日朝顔プロジェクトin姫路」活動メンバー募集中！

◎活動期間/5月ごろから11月ごろまで

美術館の前庭で、苗植え、毎日朝夕の水やりや摘芯、摘蕾、花殻摘み、種の収穫など成長に応じた手しごとをご一緒に！

お申し込み・お問い合わせは…友の会 (Mail : artomo.online@gmail.com) まで



特集/コラム

画家 内海敏夫

父は、旧制龍野中学校を卒業し、しばらく大阪の商社に勤務していました。その大阪での暮らしの中で絵の勉強をしたくなり、東京に出て、今の東京藝術大学を受けました。その時、時代的に新卒しか取らないということで大学には入れませんでした。そのまま芸大の予備校である川端画学校に通って、絵の勉強を続けたようです。その後、郷里に帰って、川西航空で戦局に合った絵を描きながら終戦を迎えます。

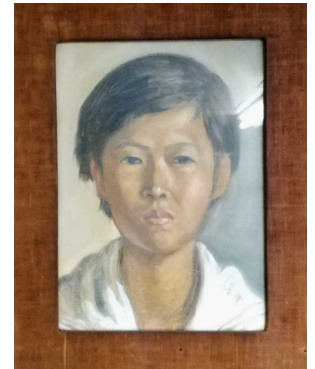
その後実家で、画家としての生活が始まりました。第2回姫路市美展で市長賞(一席)を受賞後、東京での公募展に応募して、日展、自由美術展等で入選を重ねました。

そのようななか、美術教師に誘われ、中学教師としておよそ30年間勤めました。美術室があり、若い方達との時間を父は楽しんで過ごしたように思います。1960年頃からの8年ほどは県営住宅に住み、大きな絵を描くことはできませんでしたが、教えるための資料作りで部屋中を占領し、教師の仕事を楽しんでいました。その後、アトリエができたこともあり、肖像画や号数の大きい作品を作成するようになりました。

教師をやめて本格的に絵を描きだした頃、文芸誌の表紙を頼まれて町並みを描きだすと、様変わりしていく町の姿に、突然それを残す使命感に目覚め、何百点もの町並みスケッチを残しました。当初は西播を中心に、その後兵庫県内へと広がり、「姫路と播州の町並み200景」「兵庫の民家と町並み画集」の2つの画集にまとめました。

本来描きたかったのは、裸婦の群像であったり、社会的な主張を表現する作品であったようですが、町並みは、記録としても喜んでいただける作品で、姫路市、兵庫県立歴史博物館、龍野市に寄贈しています。今は、家にある、父が残した絵をどうしたものかと考える日々です。せっかくだから、いつか自宅をアートサロンにして、絵画好きな方に作品を見ていただき、交流が生まれたら父も喜ぶだろうなあと楽しい妄想をしています。(大野彩(内海)/友の会 企画室)

※内海敏夫 (画家/1918-2010 たつの市生まれ)



私が中学生の頃、父が描いてくれたもので。親の作品展示会があり、しかたなくモデルをしましたが、担任の先生が喜んでくださったことを覚えています。今となっては、父から私へのプレゼントになり、大切にしています。

2023年度 友の会 会員募集中！

一緒に、思い思いに、アートを楽しみませんか。様々な特典がありますので、展覧会や各種講座などにお越しの際は会員証をご提示ください。

◎会員期間/2023年4月1日～2024年3月31日

◎年会費/普通会員…3,000円、学生会員…1,500円 ※10月1日以降ご入会の場合は半額

◎主な特典/①常設展、企画展の無料観覧 ②会員限定イベントのご案内 ③図録の割引購入 ④カフェでの飲食が2割引に ⑤姫路文学館、兵庫県立美術館、神戸市立博物館が団体割引料金に ※企画展(計4,700円)+常設展が、3,000円で何度でも観られます。2023年度は、書寫山園教寺でのチームラボ展も観覧無料！

お問い合わせは…姫路市立美術館友の会 (Tel : 079-222-2288) まで



姫路市立美術館 友の会 ニュースレター「ARTOMO CASUAL」第4号

発行日…2023年3月31日

発行者…姫路市立美術館友の会 企画室(姫路市立美術館内)

・編集/青田美智江、大西忠良、米谷尚子、米谷啓和、堀本由紀子、トウカイユキ、二階堂薫、西尾草子、八木章徳

・執筆/大野彩、岡崎沙知子、米谷啓和、山口政勝

・撮影/青田美智江、大野和男、米谷啓和、堀本由紀子、二階堂薫

Mail…artomo.online@gmail.com

最新情報…<https://m.facebook.com/artomo.online/>



あーともオンライン

検索

ARTOMOとは？…姫路市立美術館 友の会・ARTOMO(あーとも)は、美術館を愛し、オープン&日常的にアートに親しむためのコミュニティ。この「ARTOMO CASUAL」では、美術館や友の会の様々な取り組みを楽しみながら届けます。

本紙の無断転載を禁じます。All rights reserved. (C) TOMONOKAI,Himeji City Museum of Art,2023 (C) The Artists and the Authors,2023